

# フォレストニュース

植林が地球を救う  
平成25年(2013)9月10日  
No. 69  
発行 高津啓洋

## 精力的に活動 ボランティア隊

日本を8月26日(～9月11日)に出発した、奉仕隊は、現地時間の27

日の夕方にはアスンシオンに到着。さっそく、翌日には、ブラジルから来た5人の青年たちと合流して、最もインフラが整っていない、過酷と言われる、チャコ地方に出発しました。

トロパンパ村で、植樹をはじめ、学校の修復などをしました。

また、昨年の奉仕隊が植樹したマリア村で枯れた木を新しい木に植え替えたりしました。後半は、メインとなるミンガグアス市の植樹活動です。



トロパンパ村で



ミンガグアス市森の再生プロジェクトに協力して3回目の植樹となり、市をあげて先生や生徒が大勢参加しました

## 市長が率先して 植樹を推進

広大な森林を伐採してできた街に、森林再生を行うための市をあげてのプロジェクト(市では緑豊かな市民の憩いの公園を200箇所、造成することを計画し、努力しているところ)に、当会も3年間協力して、全ての苗木をシューダデステの育苗所から寄付し2万8千本近くを植樹してきました。

シューダデステ市の育苗所は、会員の方々の貴い寄付によって支えられ、これまでも、プレジデントフランコ市やシューダデステ市の植樹に協力してきました。

過去2年はキャンペーンの初めに市の講堂で植樹啓蒙の式典をしましたが、今年は実際に木を植える憩いの広場で簡単なセレモニーを市長を中心に行いました。

セレモニーは午前8時半から始まり、市の関係者、学校の校長などの挨拶がありました。特に女性



年間1万5千本の苗木を出荷



トラック満載で植樹地域に搬送

の校長先生は涙を流さんばかりに感動し、青年が日本から来たことを話をしていました。その後、柴沼さんが今回の奉仕隊の訪問のあいさつをし、その後、市長のあい



ミンガグアス市長と記念植樹

さつがありました。国会議員である夫人は一緒に来ることはできませんでしたが、現在、市長は親日派となり、今は自分の執務室の机の上に日本の国旗をおいて仕事をしているとのことでした。